

■ ありまつの町並み散策コース 史跡・文化財・その他散策案内

◎有松の絞りと町並み

ありまつのしほりとまちなみ（名古屋市區区有松内）
有松の町は、慶長十三年(1608)に尾張藩が出した御触書からできた町である。慶長五年(1600)に関ヶ原の合戦があり、同八年に徳川幕府が開かれ、幕府は江戸と京都を結ぶ街道を大改修し、五十三次の宿駅伝馬制度を整えた。

しかし、鳴海の宿と池鯉鮒(知立)の宿の間は松林が茂り、人家もなく追剥、盗賊がでるという有様で、現在の有松(当時桶狭間の支郷)に新町をつくり旅人の安全を図ろうと、尾張藩が免税の特権を付け開拓移住者募集の御触書を出した。関ヶ原の合戦から八年目、江戸幕府開府から五年目のことで、最初の移住者は知多郡阿久比の庄からやってきた庄九郎始め八名と文献に記されている。有松という地名はこの辺りに松が茂っていたからという説と、御触書のなかの新町(あらまち)がなまったものとの二つの説がある。

こうして有松は誕生したが、土地は痩せ、宿場と宿場の間という立地では旅籠を営むこともできず、茶屋を出しても収入にもならず苦労が続いた。そこで、移住者の長である庄九郎は慶長十五年(1610)名古屋城築城の折に、九州豊後からやって来た人々の身につけていた絞り染めに着目し、その技法と染め方を習ったと伝えられ、出身地の知多木綿を使い九利染めの手拭いを造り旅人に売り出した。これが有松の絞りの始まりである。

その後、尾張藩主に絞りの手綱を献上したり、新しい絞りの技法を開発し、次々に新製品を考案、街道を旅する人々の人気を得ていき、有松は茶屋集落から商工集落へと転身を遂げた。有松絞りは東海道随一の名産に挙げられるようになった。

時代は下り、天明四年(1784)に有松の町は大火に見舞われ町中が灰になった。しかし当時の絞り問屋は尾張藩の手厚い庇護と人々の努力により約二十年後には完全に復興した。それが現在に残る有松商家の原型である。

天保末(1844)には戸数百三十五軒、人口五百十六人と記録されている。当時最新の江戸町屋建築をモデルに、大火の経験から特に防火に配慮した。総(そう)瓦葺き(かわらぶ)・塗(ぬり)籠造り(ごめづく)・虫(むし)籠(こ)窓(まど)・海鼠壁(なまこかべ)・卯建(うだつ)を特徴とした建物となった。大火前は茅葺き(かやぶ)屋根が主だった商家から豪華な町並みが出現したのである。

絞り問屋は競って店いっぱいに絞り製品を並べ、東海道を行き来する人々に売り、当時の盛況ぶりは広重などの版画に描かれ全国に広まり、十辺舎一九の「東海道中膝栗毛」の中で弥次さん・喜多さんが有松に寄って買い物をしたと書かれ、現在まで語り継がれている。

また、近年、東海道が無電柱化され江戸時代の景観を取り戻している。

◎史跡・文化財・その他散策案内

①名鉄有松駅 (めいてつありまつえき)

（緑区有松2 1 0 2）TEL052-621-1752

現在、名鉄名古屋本線は岐阜〜豊橋間に通じている。大正六年(1917)、始めは神宮前(熱田)〜笠寺間、続いて有松まで開通。当時愛電(愛知電気鉄道)と呼ばれ、この線は有松線と呼ばれた。この計画の時、有松界隈では絞り商が土地の韓旋などをして協力した。井桁屋、橋本屋が大株主になり、笹加は取締役であった。自分の土地の中を電車が走る往時の絞り問屋の繁栄ぶりが伺い知れる。

②藍染川 (あいぞめがわ) (手越川)

桶狭間の武路の長池から有松裏を流れ、扇川に合流する。昔から有松の人々は藍染川と呼び、上流に染め屋(紺屋)があり日によっては川の色が変わった。

●小路 (こうじ)

昔は東海道の町並みより裏地に抜ける小路が各所にあった。また、裏路があり生活道路でもあり、染め屋や絞り職人が行き来した路であった。

③松野根橋 (まつのねばし) (筋違(すじかい)橋(ばし))

（緑区有松3309と鳴海町大將ヶ根の境）

東海道の藍染川に架かる橋で、有松の東の外れにあった。昔は筋違橋と呼ばれ、川を斜めに渡る所から少し東海道が南北にずれていたのでこの名がついた。

⑤東海道 (とうかいどう)

現在街道は知立から豊明、落合を経て有松までは国道一号線に交差平行し、鳴海からは北へ離れ三王山、天白橋、笠寺観音、戸部神社、山崎川を渡り八丁畷からまた国道一号線に平行し、熱田湊跡まではほぼ辿ることができる。

⑥有松神社 (ありまつじんじや)(緑区有松町桶狭間高根)

有松を一望する高根山(記念碑山)に昭和三十年に日清、日露、第二次世界大戦で戦死した人を祀る為、新しく社殿を造った。「征清獻捷碑」「忠魂碑」の碑がある。桶狭間合戦のときこの地で今川の軍勢が鳴海善照寺砦などの織田軍の動きを物見したという言い伝えがある。

⑦有松山車会館 (ありまつだしかいかん)

（緑区有松2338） TEL052-621-3000

市の民俗有形文化財に指定されている「布袋車」「唐子車」「神功皇后車」の三輛の山車があり、昭和六十三年(1988)にいつでも見られるように建設された。館内では三輛のうち一輛を交互に陳列展示している。

⑧有松の山車・山車庫 (ありまつのだし・だしぐら)

有松には昭和四十八年(1973)、名古屋市指定有形民俗文化財に指定された「布袋車」「唐子車」「神功皇后車」の三輛がある。それぞれ東町（橋東町）、中町（清安町）、西町(金龍町)の所属で庫に納められ、三町が祖先から受け継いだ宝として保管している。毎年十月の第一日曜日の天満社秋期大祭に東海道を引き回す。「布袋車」には庵振り人形、文字書き人形、唐子人形、布袋人形の四体のからくり人形がある。また文化九年(1812)に製作された大幕は山本梅逸下絵といわれ、正面に鳳凰、右に蟠龍と亀、左に麒麟の刺繍がなされた豪華なものである。見送り幕には書家の柳沢吾市の筆による詩文が書かれ、水引幕には錦糸、銀糸、色糸で雲に鶴が刺繍されている。さらにこの山車に限り夜祭り用に緋に白地で、梅鉢と橋東町と五三の桐の紋が刺繍された幕が用意されている。

「唐子車」は天保年間(1830-44)に内海の豪商廻船問屋の前野小平治が二十年もかけて黒檀、紫檀などの唐木、珊瑚や象眼を使用したり、輪掛けには青貝をうめた螺鈿で造られた豪華な山車を造った。その山車を明治八年(1875)に譲り受けたものである。大幕は緋の無地、水引幕は白羅紗に金糸で波に鯉の縫い取り、下がる房には珊瑚が使われている。また後ろの天井柱に沿って毛槍を二本立て、冷泉家縁の書の詞文が緑羅紗地に縫い取りされた見送りの幕が特徴である。

「神功皇后車」は明治六年(1873)に名古屋の久屋町の大工久七に依頼し造ったもの。この山車の人形は、最初中国の武將の関羽、項羽の人形であったが日清戦争後に中国の故事ではなく日本の伝説に変わり、カラクリの名工土井新七が製作した神功皇后と武内宿禰の鮎釣り人形に置き換えられた。前人形は庵振り人形、神官が御幣を左右に振ると舌をペロリと出す独特のカラクリである。大幕は緋の無地で、水引幕は渡辺華山の次男小華の下絵になる牡丹、杜若、芙蓉、水仙の花が白地の羅紗に刺繍された見事なものである。

⑨有松・鳴海絞会館 (ありまつ・なるみしほりかいかん)

（緑区有松3008） TEL 052-621-0111

昭和五十年(1975)県内の伝統産業のトップをきって有松・鳴海絞りは国の伝統的工芸品に指定され、製品の保存と展示を目的として同五十九年(1984)有松絞商工協同組合が建設した。隣の信用金庫と町並みの景観に合わせた塗籠造りになっており、それを機に、有松絞りまつりが再開されることになった。会館では絞り製品の販売をしている。また歴史資料・製品の展示、絞り加工技法の実演、ビデオなどを見ることが出来る。

⑩竹田庄九郎碑 (たけだしょうろうひ)(緑区有松3008)

慶長十三年(1608)尾張藩の奨励で知多郡の英比羅(阿久比)から、庄九郎始め八名の者が新しく村を開拓し、庄九郎が絞りの技法(九利染)を考案した。この功績を称えて昭和七年(1932)に有松絞商工協同業組合がこの地に「有松絞開祖竹田庄九郎之碑」を建立した。隣に「絞り中興の祖鈴木金藏翁の顕彰碑」がある。

⑪常夜燈 (じょうやとう)(緑区有松1811)

東海道とお天王坂の正に常夜燈があった。天明四年(1784)の大火後火伏(ひぶせ)の神、秋葉社の常夜燈で町内の安全を祈願したもの。前面に秋葉山、左右には村中安全と寛政十一年(1799)己未九月吉日の銘がある。またこの付近は昔伊勢神宮の通拝所があって、同じように太神宮と村中安全の火袋の欠落した常夜燈があり、近々昔の位置に戻される予定。(現在天満社境内)

⑫お天王坂 (おてんのうさか)(緑区有松1501)

駅前から東海道を交差して通じる坂道をいい、新しく広い道路ができて昔の面影はなくなったが、坂の途中に津島社(疫病の神様の牛頭(ごず)天王(てんのう))があったことによりこの名がある。またこの坂は江戸時代には高札場があった。

⑬天満社 (てんまんしゃ)(緑区鳴海町米塚)

江戸時代の中頃から有松の人々の氏神で、元は祇園寺の境内に天神を勧請し、寛政十年(1798)頃その後山の頂上に移され、文政七年(1824)に現在の社殿が当時の絞り商たちの寄進により造営された。絞り商が富裕な財力にものをいわせて建てただけに屋根の装飾は精巧で見事なものであり、現在にもその姿を伝えている。山頂には社殿が建てられる以前に数千人の人々により捧げられた詩・歌・文章を埋納したので文章嶺もしくはフミノミネと称されている。境内には筆塚や役行者石仏があり、毎年厄年の人々の寄進により諸施設が整備されている。

⑭大雄山 祇園寺 (ぎおんじ) 曹洞宗 (緑区有松212)

宝暦五年(1755)に鳴海の猿堂寺より移し建立。有松の人々の菩提寺である。有松絞りの発展に寄与した藩主義直公や絞りの開祖竹田庄九郎、中興の祖鈴木金藏など功労者を祀っている。境内には天保十二年(1841)に三十三観音石仏が建てられている。有松の絞り商や紺屋の人々が一体一体寄進したもの。

その隣には地藏菩薩、薬師如来、不動明王、弥勒菩薩の石像が並んでいる。また文政十一年(1828)に造られた仏足石がある。これはお釈迦様の足の裏の形が彫られた石で、歌碑には「御跡作る石の響きは天に至り地さえ揺れ父母がために諸人のために」と刻まれている。

⑮有松の一里塚 (ありまつのいちりづか)

祇園寺の西に大正時代まで残っていた一里塚の築山が平成24年、元の場所には有松一里塚として完成。東海道の一里塚は西は笠寺、東は阿野にあり、いずれも史跡となっている。

⑯長坂道 (ながさかみち)

江戸時代以前より、祇園寺前から桶狭間を通り大府や刈谷へ行く古道があり、戦前までは多くの人々に利用されていた道であった。

⑰弘法堂 (こうぼうどう)(緑区有松620)

弘法大師を祀っている弘法堂が長坂道の途中に建てられている。御堂には大師のほか毘沙門天と不動明王が祀っており、敷地内に西町の秋葉社が鎮座している。

●秋葉社 (あきばしゃ)(緑区有松内)

祭神は火伏の神の火之廻(ほのか)貝土(ぐつち)神で有松には五社ある。祇園寺境内、西町(長坂道)、中町(天王坂)、東町(有松中学校の東)、松原(名鉄変電所西)にそれぞれ祀られている。また秋葉講として色々な行事が町内の人々により守り継がれている。

⑱地藏堂(じぞうどう)(緑区有松内)

地藏菩薩が祀られている地藏堂はお天王坂にあったが、少し奥に移された。他に東海道沿いの有松郵便局の東に延命地藏が祀られており、江戸時代から有松の人々により守られ、旧暦6月16日には延命地藏尊供養祭が行われる。

◎有松の町並み案内（東海道筋）

①服部邸 (はっとりてい) (井桁屋 昭和三十九年愛知県指定有形文化財)

屋号は井桁屋。有松を代表する建物で創業は寛政二年(1790)で、今から二百年前である。棟数は十一棟の大屋敷で、主屋一、井戸館一、客室一、門一、蔵六、門長屋一がある。蔵の名称は店蔵、米蔵二、藍蔵、味噌蔵、宝蔵蔵。建築様式は卯建、塗籠造り、海鼠壁、連子格子と有松の町屋建築のすべての特徴を備えた建物である。平成七年に庭のクログアネモチが都市景観保存樹に指定された。

裏庭から見た服部邸は、右に見える木々のところが庭になっていて、待合い、茶席等が揃っている。正面の三層建ての土蔵は右から米蔵、藍蔵で後ろの高い鬼瓦が見えるのが宝蔵蔵である。

②蔵工房 (くらこうぼう)

井桁一さんの蔵で昔は材木蔵。現在は染色作家早川嘉英さんのアトリエとして使われ、新しい作品の創作活動の拠点として活用されている。

③竹田邸 (たけだてい) (東竹)

通称、東竹といわれ、隣のビルまで一棟の大きな主屋で、江戸時代の面影を残した建物である。当時宣伝用に安藤広重などに浮世絵を書かせており、大きな暖簾に十と描かれた店はこの竹谷左兵衛のお店であった。

④橋爪邸 (はしづめてい)

大正十年(1921)創業の絞り商で昭和初期の建造。主屋、茶席、三棟の蔵があり、主屋の二階のたちが高いのが特徴。

⑤安田邸 (やすだてい) (安田商店)

明治初年より全ての絞りに関する紙を扱い、紙金さんと呼ばれ染色に使用する塩の販売も行っていた。

⑥服部邸 (はっとりてい) (寿限無茶屋)

明治初期の建物で大正時代まで絞り商であった。お隣の井桁一さんの分家で、現在は手打ちどん店を営んでいる。又、山車会館裏の蔵は有松で一番大きい蔵である。

⑦服部邸 (はっとりてい) (井桁一蔵昭和六十二年 愛知県指定有形文化財)
明治初期の建物で、井桁屋の分家で屋号を井桁一さんといひ、戦後しばらくまで絞り商を営んでいた。蔵は井桁屋から分家のおりに譲られたもの。

⑧棚橋邸 (たなはしてい) (平成二十一年登録有形文化財)

江戸時代の建物で井桁屋の本家で大井桁屋といわれ、当地では最後まで旅人に絞り商品の販売をしていた店。

⑨山口邸 (やまぐちてい) (樹屋)

江戸末期に大改築された古い建物で、代々山口喜三郎を襲名されていた店。尾張藩の絵師小田切春江の錦絵が残されている。

⑩中濱邸 (なかはまてい) (平成二十年登録有形文化財)

明治期の古い建物で二階は黒漆喰塗り仕上げの塗籠造りである。町屋の造形と景観は登録有形文化財である。東隣の空き地は染め物工場であった。

⑪神谷邸 (かみやてい) (神半邸)

昭和八〜九年頃の建物で、絞り問屋で神谷商店神谷半太郎氏宅、通称神半さんと呼ばれ、今は店舗として活用されている。

⑫早川邸 (はやかわてい) (早恒染色)

綿絞りの代表的染め物屋である。有松には現在数軒の染め物屋があり、浴衣など手染めで絞られている。

⑬中舛竹田家 (なかますたけだけ)

江戸時代の建物であったが老朽化が進み町並みの景観を維持する為、行政の指導協力と温かい皆さんの募金により古い趣を残して改築した。

⑭竹田邸 (たけだてい) (竹田嘉兵衛商店 平成七年名古屋市指定有形文化財)

屋号は笹加といひ現在八代目。建物は江戸末期から明治期にかけての絞り問屋の特徴をよく残した建物で、明治から大正にかけて増改築された。特に主屋と書院、茶席は重厚な造りで他に蔵が五棟あり、建築学的にも貴重な建物となっている。建築様式としては一階に連子格子、海鼠壁、二階は黒漆喰の塗籠造りに虫籠窓の有松の商家の伝統的形態を踏襲している。主屋の屋根には明治期のガス燈の名残のランプがある。

⑮岡邸 (おかてい) (岡兼商店 昭和六十二年名古屋市指定有形文化財)

建物は江戸時代末期の建築。絞り商丸屋丈助の名で錦絵に描かれた有松で代表的な主屋である。重厚な絞り問屋の建築形態をよく残した建物で、一棟の建造物としては有松で一番大きな建物である。建築様式は、連子格子、海鼠壁、虫籠窓、塗籠造りで、二階窓の優美な縦格子、軒は波状で美しい外観を備えた建物である。

⑯小塚邸 (こづかてい) (山形屋 平成四年名古屋市指定有形文化財)

天明の大火後すぐ建てられた約二百年前の建物。屋号を山形屋といひ明治期まで絞り問屋を営んでいた。建物は主屋一、蔵二、茶室一の構造で主屋の一階に女中、二階に小僧部屋があった。建築様式は連子格子、海鼠壁、虫籠窓、塗籠造り、卯建があり、軒下には駒止の金具が残っている。重厚広壮な有松の絞り問屋の形態をよく留めており、有松の家並みの景観上からも貴重な建物である。また茶室は尾州久田流、下村宗匠好みの趣がある。

⑰安藤邸 (あんどうてい) (安藤来助商店)

創業は江戸末期で代々来助を襲名されていた。蔵は明治期、主屋は昭和八〜九年の建築で、昭和期の建物の特徴である二階のたちが高くガス灯の名残のランプが残され、裏には茶室が設けられている。

⑱久田邸 (ひさだてい) (絞りのひさだ)

祇園寺前より長坂道に入りしばらくくると右手に久田邸はある。漆喰塗りの門をくぐると静寂な風情漂う趣のあるお庭が目に入るお店である。

⑲湯のしの張文 (ゆのしのはりぶん) (加藤)

絞りにはそれぞれ工程があるが、その最後の仕上げである「湯のし工程」を行っているお店である。

参考資料
有松町史、緑区誌、緑区の歴史、名古屋の史跡と文化財、名古屋市史、有松まちなみと山車、愛知県地名大辞典、日本史大辞典。